

6 5 5 号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会 西部地域畜産経営技術推進指導協議会  
富山県東部家畜保健衛生所 富山県西部家畜保健衛生所 2023.12.10

|  |  |
|--|--|
| 県内すべての養鶏農場で緊急消毒を実施 ... 1                     | 令和5年度病性鑑定特殊講習会(病理部門)を受講して ..... 5                        |
| 今シーズン初の高病原性鳥インフルエンザ発生を確認 野鳥でも全国で感染個体を確認... 2 | 令和5年度 富山県畜産共進会(肉牛の部 枝肉 ) が開催されました ..... 5                |
| 年末年始を迎え防疫対策の徹底を!! ..... 2                    | 防疫情報..... 6  |
| 韓国においてランピースキン病が感染拡大... 3                     | 第74回日本学校農業クラブ全国大会 家畜審査競技会(肉用牛の部)で 中央農業高校生が優秀賞に入賞 ..... 6 |
| 冬季における消毒のポイント ..... 3                        | お知らせ ..... 6   |
| 中央農業高校が畜産農場で北陸初の JGAP 認証を取得!! ..... 4        | 年末年始の死亡牛検査受付対応について ... 6                                 |
| GAP 認証のその先 ~中央農業高校 畜産専攻 GAP チームの取組~ ... 4    |  |

## 県内すべての養鶏農場で緊急消毒を実施



県内養鶏農場での消石灰散布による緊急消毒

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) は、今シーズン、11月25日に佐賀県鹿島市の採卵鶏農場で今季初となる発生が確認され、野鳥でも本県を含め、全国で相次いで感染個体が確認されています(2ページ参照)。なお、昨シーズンは養鶏農場等で26道県84事例の発生が確認され、過去最大となる1,771万羽の家きんが殺処分されました。

現在、HPAIは全国どこで発生してもおかしくない状況となっており、県内での発生リスクも極めて高い状況となっています。

県では本病の発生を未然に防ぐため、県内23戸すべての養鶏農場を対象に消石灰を配布し、11月30日までに衛生管理区域や鶏舎周辺の緊急消毒を実施して、防疫対策強化を行いました。

(東部家保防疫課 本多課長)

# 今シーズン初の高病原性鳥インフルエンザ発生を確認 野鳥でも全国で感染個体を確認

11月25日に佐賀県鹿島市の採卵鶏農場で今シーズン初の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が確認され、27日には茨城県笠間市（2例目）、30日には埼玉県毛呂山町（3例目）、12月3日には鹿児島県出水市（4例目）と相次いで発生が確認されています。農場でのHPAI発生は、平成16年に79年ぶりに国内発生を認めて以降、4シーズン連続は初めてです。

また、野鳥では、10月4日に北海道美瑛市で回収されたハシブトガラスで確認されて以降、10都道府県44事例確認されており、当県でも11月21日に魚津市上口で回収されたヒドリガモ（35例目）から本病ウイルスが確認されています（12月4日現在）。

国内養鶏農場でのHPAI発生を受け、11月28日には緊急の関係閣僚会議が開かれ、「養鶏農家の衛生管理を徹底する等の予防措置をとること」等、指示があったところです。

本病ウイルスが広く全国で多数検出されていることから、周辺環境中に本病ウイルスが存在していることを念頭に置いた対策が必要です。養鶏農家の皆様は、本病の侵入に最大限の警戒を行って、防疫対策の徹底をお願いします。

## ◎ 防疫対策の重要ポイント

- 農場に入る全ての人、車両、物品の衛生対策
  - ・人や車両消毒の徹底
  - ・農場専用の器具機材の使用
- 衛生管理区域及び家きん舎ごとの専用長靴の着用
  - ・着替え、履き替えの前後で交差しないよう境界を明確化
- 野生動物の侵入防止対策
  - ・防鳥ネットや壁の破損は速やかに修繕
  - ・普段目の届きにくい畜舎の屋根裏や入気口等の点検
- 異状の早期発見及び早期通報の徹底
  - ・毎日の健康観察を行うこと

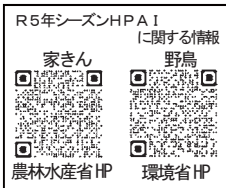
家きん 4県4事例

【3例目】11/30 埼玉県毛呂山町 採卵鶏 4.5万羽

【1例目】11/25 佐賀県鹿島市 採卵鶏 4万羽

【4例目】12/3 鹿児島県出水市 採卵鶏 2.3万羽

【2例目】11/27 茨城県笠間市 採卵鶏 7.2万羽



国内におけるHPAIの発生状況（出典：農林水産省改編）

野鳥 10都道府県44事例

| 事例 | 回収日   | 場所      | 種名        |
|----|-------|---------|-----------|
| 1  | 10/4  | 北海道美瑛市  | ハシブトガラス   |
| 2  | 10/18 | 北海道釧路市  | ノスリ       |
| 3  | 10/26 | 北海道釧路市  | オオハクチョウ   |
| 4  | 10/27 | 宮城県大崎市  | ハシブトガラス   |
| 5  | 10/29 | 宮城県登米市  | オオタカ      |
| 6  | 10/25 | 北海道別府町  | タンチョウ     |
| 7  | 10/31 | 北海道厚岸町  | オオハクチョウ   |
| 8  | 11/6  | 鹿児島県出水市 | 環状産卵卵 (水) |
| 9  | 11/11 | 鹿児島県出水市 | オナガガモ     |
| 10 | 11/12 | 鹿児島県出水市 | ヒドリガモ     |
| 11 | 11/6  | 北海道釧路町  | タンチョウ     |
| 12 | 11/9  | 岡山県総社市  | ツミ        |
| 13 | 11/6  | 北海道別府町  | ハクチョウ     |
| 14 | 11/8  | 鹿児島県出水市 | ヒドリガモ     |
| 15 | 11/13 | 鹿児島県出水市 | 環状産卵卵 (水) |
| 16 | 11/13 | 岡山県倉敷市  | オナガガモ     |
| 17 | 11/14 | 千葉県東金市  | カモ類       |
| 18 | 11/9  | 鳥取県鳥取市  | 環状産卵卵 (水) |
| 19 | 11/19 | 鹿児島県出水市 | ヒドリガモ     |
| 20 | 11/11 | 北海道中標津町 | オオハクチョウ   |
| 21 | 11/13 | 北海道大滝町  | オオハクチョウ   |
| 22 | 11/14 | 北海道釧路町  | タンチョウ     |
| 23 | 11/15 | 北海道別府町  | タンチョウ     |
| 24 | 11/18 | 宮城県多賀城市 | オオハクチョウ   |
| 25 | 11/20 | 鹿児島県出水市 | 環状産卵卵 (水) |
| 26 | 11/21 | 香川県高松市  | ヒドリガモ     |
| 27 | 11/21 | 高知県高知市  | ハヤブサ      |
| 28 | 11/24 | 北海道札幌市  | ハシブトガラス   |
| 29 | 11/24 | 鹿児島県出水市 | コガモ       |
| 30 | 11/17 | 北海道別府町  | ヒドリガモ     |
| 31 | 11/19 | 北海道別府町  | オオハクチョウ   |
| 32 | 11/19 | 北海道厚岸町  | オオハクチョウ   |
| 33 | 11/19 | 北海道別府町  | オオハクチョウ   |
| 34 | 11/20 | 北海道釧路町  | オオハクチョウ   |
| 35 | 11/21 | 富山県魚津市  | ヒドリガモ     |
| 36 | 11/21 | 北海道別府町  | オオハクチョウ   |
| 37 | 11/22 | 北海道釧路町  | ハシブトガラス   |
| 38 | 11/23 | 宮城県多賀城市 | オオハクチョウ   |
| 39 | 11/22 | 北海道むかわ町 | オオハクチョウ   |
| 40 | 11/24 | 北海道釧路町  | オオハクチョウ   |
| 41 | 11/27 | 鹿児島県出水市 | 環状産卵卵 (水) |
| 42 | 11/28 | 鹿児島県出水市 | ナベヅル      |
| 43 | 11/26 | 北海道札幌市  | クマタカ      |
| 44 | 11/28 | 東京都千代田区 | ノスリ       |

（東部家保防疫課 本多課長）

## 年末年始を迎え防疫対策の徹底を!!

年末年始や旧正月（中国での春節：2024年は2月10日）の時期は、人や物の移動が活発になることが予想されます。人や物の移動に伴い、越境性動物疾病\*の我が国への侵入リスクの高まりが危惧されます。

\*越境性動物疾病とは...

国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持つ疾病。  
例えば、口蹄疫、アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど。

近隣諸国では、継続して越境性動物疾病が発生しており、家畜、家きんの飼養者の皆さまには引き続き、下記の防疫対策について徹底をお願いします。

- ① 防護柵、防鳥ネット、畜舎の穴や隙間等の点検を実施し、不備があれば速やかに改善してください。
- ② 関係者以外の立入りを制限し、農場に不要な物を持ち込まないようにしてください。
- ③ 農場や畜舎周辺に消石灰や消毒薬の散布を継続して実施してください。
- ④ 飼養家畜・家きんの異状を認めた場合は、速やかに家畜保健衛生所にご連絡願います。

○東部家畜保健衛生所（電話）076-479-1106

○西部家畜保健衛生所（電話）0763-33-2315

【年末年始も電話はつながります。】

（東部家保防疫課 先名係長）

# 韓国においてランピースキン病が感染拡大

ランピースキン病は牛のみが感染し、食欲不振と発熱の他、全身、特に頸部・背部・外陰部などにできる数個～数百個の結節が特徴であり、接触感染や昆虫(蚊、ハエなど)によって機械的に伝播されるウイルス性疾患です。泌乳ピーク期の乳牛や子牛で症状が重く、死亡率は1～5%と低いものの、生産性が低下し、経済的被害は大きいとされています。治療法は無く、海外では主に感染地域の牛の移動制限、症状のある牛の淘汰及びワクチン接種による防疫対応が行われています。



本病による皮膚の結節 (出典：FAOウェブサイト)

本病は、アフリカ及びマダガスカル島で主に発生していましたが、近年クウェート、イスラエル、イエメンなどの中近東の国々に波及し、2015年にはトルコを経由し、東南ヨーロッパに拡大しました。その後、2019年にインドや中国で感染が広がって以降、アジア各地で発生し、韓国でも今年10月19日に初発生以来、11月28日時点で107件の発生が認められています。

本病発生を受け、韓国の対策中央本部は、農場内の昆虫に対する防除指導を徹底し、発生地域の畜産関係施設の従事者・車両の一時移動禁止措置を取るとともに、11月10日時点で国内すべての牛(93,944農場：4,075千頭)に対しワクチン接種を完了しています。当初は発生農場における飼養牛全頭の殺処分により感染拡大を防止していましたが、ワクチン接種完了や気温低下により昆虫の活動性低下が予想されるなど、本病の発生推移及び伝播特性などを総合的に考慮し、11月13日からは原則、陽性個体だけを殺処分する選択的殺処分を適用しています。

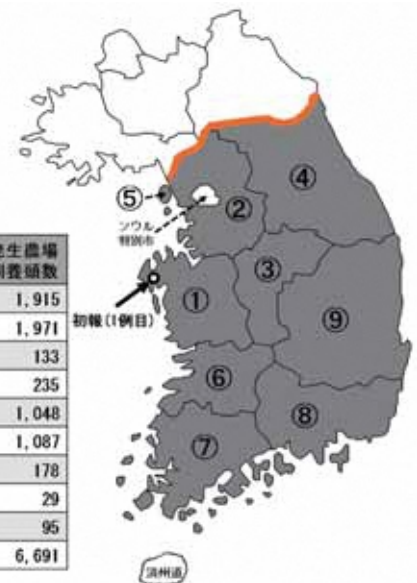
韓国では最初の発生農場の感染牛の臨床症状から、9月中旬頃にウイルスが侵入したと推定しており、海外で本ウイルスに感染した蚊などの吸血昆虫が気流に乗って侵入やコロナ以後海外との交流が増加し船舶など港湾を通じて侵入したなど、多様な可能性を考慮し、感染経路について疫学調査中です。

日本では本病を家畜伝染病予防法の届出伝染病に指定しており、万が一国内で発生した場合には自主的淘汰が必要となります(ワクチンは日本では未承認)。

牛飼養農家の皆様には、本病を疑う症状が飼養する牛に見られましたら、家畜保健衛生所に連絡いただきますようお願いいたします。

| 農家種別 | 発生件数 | 発生農場調査頭数 |
|------|------|----------|
| 韓牛農家 | 82   | 4,641    |
| 肉牛農家 | 2    | 288      |
| 乳牛農家 | 23   | 1,762    |
| 計    | 107  | 6,691    |

| No. | 初発年月  | 行政区画  | 発生件数 | 発生農場調査頭数 |
|-----|-------|-------|------|----------|
| ①   | 10/19 | 忠清南道  | 41   | 1,915    |
| ②   | 10/20 | 京畿道   | 26   | 1,971    |
| ③   | 10/22 | 忠清北道  | 5    | 133      |
| ④   | 10/23 | 江原道   | 7    | 235      |
| ⑤   | 10/23 | 仁川広域市 | 9    | 1,048    |
| ⑥   | 10/24 | 全羅北道  | 14   | 1,087    |
| ⑦   | 10/28 | 全羅南道  | 2    | 178      |
| ⑧   | 10/30 | 慶尚南道  | 1    | 29       |
| ⑨   | 11/13 | 慶尚北道  | 2    | 95       |
|     |       | 計     | 107  | 6,691    |



韓国における本病の発生状況 (出典：農林水産省改編)

(東部家保防疫課 中村主任)

## 冬季における消毒のポイント

農場の管理において消毒は、感染症の侵入防止、安全な畜産物の生産、環境の微生物汚染防止、安全な労働環境確保のため、非常に大切な作業です。一方で、不適切なやり方では、効果が十分得られないだけでなく、時間や費用・労力の浪費、人体への有害な作用の誘発、また実施した安心感からかえって疾病の侵入につながる可能性もあります。

消毒薬の効果を考える上で「濃度」、「温度」、「時間」の3つが重要な要素となります。多くの消毒薬では一般的に、濃度・温度は高くなると、時間は長くなると効果が高まります。

冬季は、このうち「温度」が下がることで、消毒効果が低下します。そのため、濃度を高めに設定する、漬け置き等で作用時間を確保するなど他要素を強化して補うことが必要です。特に、多くの農場で使用されている逆性石鹼は、低温下で効果が著しく低下する消毒薬となります。本剤を用いる場合は、相乗的に効果を高めることのできるアルカリ化(水酸化カルシウムなどを消毒液に添加)も一つの方法です。

ただ、効果を減弱する糞などの有機物が多い農場では、消毒による病原体の不活化には限界があります。エリアごとの長靴交換を徹底するなどバイオセキュリティを向上する取り組みも併せて実施し、疾病の侵入等を防いでください。(養豚・養鶏では、飼養衛生管理基準で畜舎ごとの専用靴の履き替えは必須となります。)

(東部家保環境課 水木課長)

## 中央農業高校が畜産農場で北陸初の JGAP 認証を取得 !!

令和 5 年 11 月 28 日付けで富山県立中央農業高校が畜産農場として北陸初となる JGAP 認証を取得されました。同校では、平成 31 年 4 月から GAP 認証取得に向けた取り組みを開始し、広域普及指導センターと東部家畜保健衛生所も構築に向けた支援を行ってきました。チーム会議は定期的に行い、先生と生徒が協力して文書化や GAP の理解促進を図ってきました。これら取り組みを進めたことで、JGAP 認証取得に必要な要求事項を十分に満たす水準となり、本年 10 月 30 日に現地審査を受検、JGAP 認証に至りました。同校では、今後も本システムに継続して取り組み、GAP の普及活動にも繋げていきたいとのことです。今回の認証をきっかけに、GAP への関心が高まり、県内畜産農家でも取り組みが広がることを期待しています。

(東部家保環境課 田知主任)

## GAP 認証のその先 ~中央農業高校 畜産専攻GAPチームの取組~

富山県立中央農業高校生物生産科動物科学コース畜産専攻では GAP チームを発足し、JGAP (畜産) の取り組みを行っています。私たちが GAP という言葉を初めて聞いたのは 2 学期のはじめ、畜産担当の先生から「一緒に JGAP 認証に向けて取り組んでみないか」と声をかけていただいた時でした。「GAP っていったい何?」と思ったのが正直な気持ちでした。GAP についての知識がゼロの状態です。何が分からないのかが分からない状態だったため、そもそも GAP とは何なのかを理解する必要がありました。

しかし、初めて先生から JGAP 認証について講義を受けた際も何を言っているのか全く意味が分からず、自分たちはこれからやっていけるのかと不安な気持ちになりました。それに加えて書類の膨大な情報量と専門用語の数々に圧倒され、知らない単語に難しい法律の名前、わからないことばかりで何度も挫折しそうになりました。それでも、寮で先生を含めた 5 人で睡魔と闘いながら夜遅くまで作業したこともあり、自己点検をしていく中で何が取り組めていないのか、どれが当てはまっていないかなど、少しずつですが GAP のシステムが理解できるようになり、実は今まで私たちが日々の一般管理で行っていることを少し細かく確認しているだけなのだと気づくことができました。

最近になって取り組みを通して感じていることは、不安よりも達成感や充実感を感じるこのほうが多いということです。作成した書類の束を一冊のファイルに綴ったときは言いようのない達成感を感じ、自分が取り組んできたことを誇りに感じました。また、GAP の取り組みを始めたことにより、今までの牛舎での行動を見直すことができたり、新しいことを知ることができたりと、とても勉強になりました。そして何よりも、GAP を通して仲間とのきずなが深まったように感じます。GAP に取り組むようになってからというもの、朝も放課後も毎日牛舎へ通い、帰寮時間ギリギリまで話し合いをしたり作業をしたりしていました。JGAP の資料が一つずつ終わっていく喜び、仲間と協力して 1 つのことに取り組む充実感、これらは GAP に取り組んでいなかったら感じることができなかつたものです。

迎えた 10 月 30 日の現地審査の日は、今まで経験したことの無い緊張の時間が続きました。最終会議で審査員の先生方から指摘された是正項目は必須項目、重要項目併せて 5 つ。翌日からすぐに是正処置に取りかかり、晴れて 11 月 28 日付けで北陸初の JGAP (畜産) 認証農場となりました。しかし、認証取得はゴールではなくスタートにすぎません。認証を継続し、後輩にこの取り組みを引き継いでもらうためには、誰が見てもわかりやすい様式に作り直し続ける必要があります。また、私たちの取り組みを皮切りに、学校のすべてのコースで各種の GAP・HACCP・ISO などが取得できるような取り組みを行っていきたいです。10 月 30 日に行われた JGAP の初回認証審査を終えた私たちは、GAP への知識が深まり、かみ砕けばもっと簡単にできるのではないかと感じるようになりました。

そこで今後は、GAP の内容を簡略化した中央農業高校版の GAP、略して『CGAP』の作成を急ぎ、県内の畜産農家へ CGAP を通した GAP 認証の推進、小中学生を対象とした農業や GAP についての出前授業などのアンバサダー活動を行うことで、広く県民全体に GAP という言葉を浸透させていくことを目標としました。将来的には、これを機に県民の農業への興味、関心が向上し、近年減少気味の農業従事者を増やしていけるような取り組みを考え、実行していきたいと考えています。

(中央農業高校 畜産専攻 GAP チーム)



JGAP 認証初回審査の様子(10/30)



畜産専攻 GAP チーム

## 令和5年度病性鑑定特殊講習会(病理部門)を受講して

5月10日から10月30日までの5か月間、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門(動衛研)にて、令和5年度病性鑑定特殊講習会(病理部門)を受講しました。本講習会では全国の家畜保健衛生所や動物検疫所等の職員が集まり、ウイルス、細菌、病理、生化学の各分野に分かれ、家畜疾病の診断技術や知識について学びました。今年度より本研修は7か月間から5か月間に短縮されましたが、動衛研の職員の方々や全国から集まった研修生の協力によって非常に充実した研修となりました。



研修生集合写真(長澤:上段右から3番目)

私が配属されたのは衛生管理研究領域の病理・生産病グループで、主に病理解剖から病理組織学的検査の診断技術について学びました。具体的には牛やめん羊の病理解剖や採材した臓器の病理組織標本の作製、診断に必要な特殊染色の手技、病理組織所見のとり方について勉強しました。病理組織学的検査は、他の検査と比較して、家畜の解剖から検査結果を出すまでに時間のかかる検査ですが、既に出た細菌検査やウイルス検査等の検査結果を基に総合的な最終診断を行うため、疾病診断の要となる検査です。例えば、地方病性牛伝染性リンパ腫(EBL)は、牛伝染性リンパ腫ウイルス(BLV)が原因となり、全身のリンパ節をはじめとした臓器にBリンパ球由来の腫瘍を形成する疾患ですが、BLVに感染した牛が全てEBLになるのではなく、一部がEBLを発症します。そのため、BLV感染牛が死亡した場合に、その牛がEBLを発症して死亡したかどうかを診断するためには、その牛にBリンパ球由来の腫瘍が形成されているか免疫組織化学染色等を実施して病理組織学的診断を行う必要があります。家畜の死亡した原因を速やかに特定し、再発防止、疾病のまん延防止を図るためにも、正確な検査技術や疾病に関する多くの知識が必要であることをこの研修で実感しました。

今後は、研修で得られた検査技術や知識を活用し、家畜伝染病等の疾病の迅速かつ的確な診断に努め、さらなる診断技術や知識の向上のために研鑽に努めてまいりたいと思います。

(東部家保検査課 長澤獣医師)

## 令和5年度 富山県畜産共進会(肉牛の部<枝肉>)が開催されました

11月24日、射水市の富山食肉総合センターにおいて、令和5年度富山県畜産共進会(肉牛の部<枝肉>)が開催され、和牛28頭、交雑種23頭の計51頭が出品されました。なお、和牛の内、16頭(57%)は昨年度に新たなブランド牛として誕生した「とやま和牛酒粕育ち」の出品でした。

厳正な審査の結果、和牛の優等賞1席は柏慶太さんが受賞されました。受賞した枝肉は、「とやま和牛酒粕育ち」で、格付けがA-5-12、枝肉重量532.5kg、ロース芯面積89cm<sup>2</sup>、ばらの厚さ8.3cmという成績でした。審査講評では「筋間脂肪が少なく、枝肉全体的に厚みがあり、特にカブリ(僧帽筋)の脂肪交雑が良好で、均整がとれ非常に見栄えが良い枝肉」と高く評価されました。

交雑種の優等賞1席は、(株)ファーム谷口さんが受賞されました。受賞した枝肉の格付けはB-5-12、枝肉重量544.5kg、ロース芯面積68cm<sup>2</sup>、ばらの厚さ7.9cmという成績で、審査講評では「交雑種でありながら脂肪交雑がNo.12となったことは高く評価でき、極めてサシの良好な枝肉」と称されました。

また、全体として、和牛の肉質は全て4等級以上(5等級は79%)、交雑種でも肉質5等級が4頭おり、レベルの高い共進会で、生産者の皆さんの高い技術が感じられました。入賞された皆様、おめでとうございます。

令和5年度 富山県畜産共進会(肉牛の部<枝肉>)審査結果

| 出品部類 |    | 区分    | 農協名  | 受賞者       |
|------|----|-------|------|-----------|
| 類別   | 性別 |       |      |           |
| 和牛   | 去勢 | 優等賞1席 | みな穂  | 柏慶太       |
|      | 去勢 | 優等賞2席 | 氷見市  | 谷島 正市     |
|      | 雌  | 1等賞1席 | みな穂  | 柏慶太       |
|      | 去勢 | 1等賞2席 | 氷見市  | 田中 賢治     |
| 交雑種  | 去勢 | 優等賞1席 | みな穂  | (株)ファーム谷口 |
|      | 去勢 | 優等賞2席 | いなば  | 山本 信雄     |
|      | 雌  | 1等賞1席 | みな穂  | (株)ファーム谷口 |
|      | 去勢 | 1等賞2席 | アルプス | 嶋田 勇      |

(東部家保環境課 水木課長)

# 防疫情報

## 全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（12月4日現在）

| 事例 | 発生日    | 発生場所    | 経営形態 | 飼養羽数   | 血清型  |
|----|--------|---------|------|--------|------|
| 1  | 11月25日 | 佐賀県鹿島市  | 採卵鶏  | 約4.0万羽 | H5N1 |
| 2  | 11月27日 | 茨城県笠間市  | 採卵鶏  | 約7.2万羽 | H5N1 |
| 3  | 11月30日 | 埼玉県毛呂山町 | 採卵鶏  | 約4.5万羽 | H5N1 |
| 4  | 12月3日  | 鹿児島県出水市 | 採卵鶏  | 約2.3万羽 | H5N1 |

## 県内の主な家畜伝染性疾病の発生

| 病名                                 | 畜種  | 発生日    | 戸数 | 頭羽数 | 備考    |
|------------------------------------|-----|--------|----|-----|-------|
| 牛パストツレラ症                           | 牛   | 10月16日 | 1  | 1   |       |
| 肝膿瘍                                | 牛   | 10月24日 | 1  | 1   |       |
| 牛パストツレラ症                           | 牛   | 11月2日  | 1  | 3   |       |
| 牛コロナウイルス病                          | 牛   | 11月6日  | 1  | 4   |       |
| 豚胸膜肺炎                              | 豚   | 11月20日 | 1  | 1   |       |
| 豚丹毒（届出伝染病）                         | 豚   | 11月21日 | 1  | 1   | と畜場発見 |
| 鶏痘（届出伝染病）                          | 鶏   | 11月6日  | 1  | 5   |       |
| 鶏クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症と<br>鶏コクシジウム病 | 鶏   | 11月14日 | 1  | 2   |       |
| 鶏コクシジウム病                           | 鶏   | 11月14日 | 1  | 2   |       |
| めん羊の消化管内線虫症                        | めん羊 | 11月14日 | 1  | 1   |       |
| 山羊の消化管内線虫症                         | 山羊  | 11月21日 | 1  | 1   |       |

## 県内における野生いのししの豚熱 PCR 陽性事例（令和5年11月以降）

（12月6日現在）

|   | 発見状態 | 発見又は捕獲日 | 発見又は捕獲場所   | 成長区分 | 性別 |
|---|------|---------|------------|------|----|
| 1 | 捕獲   | 10月27日  | 氷見市白川地内    | 成獣   | 雄  |
| 2 | 捕獲   | 11月1日   | 氷見市吉滝地内    | 成獣   | 雌  |
| 3 | 捕獲   | 12月1日   | 富山市八尾町布谷地内 | 成獣   | 雄  |

【参考】令和元年7月30日以降の野性いのしし豚熱検査結果（単位：頭）

| 区分     | 陽性  | 陰性    | 計     |
|--------|-----|-------|-------|
| 死亡いのしし | 23  | 3     | 26    |
| 捕獲いのしし | 77  | 2,373 | 2,450 |
| 合計     | 100 | 2,376 | 2,476 |

## 第74回日本学校農業クラブ全国大会 家畜審査競技会（肉用牛の部）で 中央農業高校生が優秀賞に入賞

「農業高校生の甲子園」と呼ばれる第74回日本学校農業クラブ全国大会が10月24日～26日に熊本県で開催され、中央農業高校2年の三浦琢磨さんが家畜審査競技会 肉用牛の部で優秀賞に入賞されました。

本競技では、各都道府県連盟から選手44名が出場し、雌育成牛及び雌子牛各4頭の体型審査、比較・順位付けを行って、その正確性が競われました。選手は、牛の優劣を見極める技術の他、体型審査等の知識も十分有していることが求められます。三浦さん、本当におめでとうございます。

県内農業高校生の更なる飛躍を期待するとともに、県では将来の畜産現場の担い手となる技術者に対して今後も支援を続けていきたいと思っております。



競技会（体型審査）の様子

（東部家保環境課 田知主任）

### ☆ お知らせ ☆

| 催事等        | 期日     | 場所            |
|------------|--------|---------------|
| 北陸三県和牛子牛市場 | 12月21日 | 北陸三県家畜市場（金沢市） |

### \* 年末年始の死亡牛検査受付対応について

家畜保健衛生所は、12月29日（金）～1月3日（水）は閉庁となりますが、死亡牛検査は12月29日（金）、30日（土）および1月3日（水）の午後は受付いたします。なお、搬入は午後1時～4時をお願いします。

発行所 富山県東部家畜保健衛生所 [http://www.pref.toyama.jp/cms\\_sec/1687/](http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/)  
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話 (076) 479-1106 F A X (076) 479-1140  
編集者 水木 亮史（富山県東部家畜保健衛生所）